英語科

教科領域別研究テーマ

【社会や世界，他者と関わる中で，自分の気持ちや
考えを主体的に表現し，伝える力の育成】



— 英語科

社会や世界，他者と関わる中で，自分の気持ちや考えを主体的に表現し，伝える力の育成

実践者　河野　操，向井　俊博
愛媛大学研究パートナー　池野　修，立松　大祐

第１章　はじめに

グローバル化が進んだ社会では，個性や考え方が異なる他者のことを理解し，意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り，よりよい関係を築こうとする態度が求められる。外国語教育では，これらの能力を高めるために，スキルの習得だけでなく，習得したスキルを生かし，互いの考えを理解し合い，折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。社会や他者と積極的に関わり，相手をより深く知ろうとする態度は，持続可能な社会の形成に必要な資質・能力につながるものであると思われる。

英語科では，これまでの研究で豊富な語彙力や豊かな表現力の不足を課題として捉えてきた。最終年次となる今年度は，場面を重視したパフォーマンス課題への取組を通して，社会や他者と関わる中で，自分の気持ちや考えを主体的に表現し，伝える力の育成を目指している。そのような中で，英語を使って生徒同士が協働的に学び合いながら課題を解決することによって，深い学びにつながり，自分の気持ちや考えを伝え合える生徒を育成することができるのではないかと考え，研究を進めた。

第２章　研究の実際

研究（その１）

統合的な運用能力を高める言語活動の工夫

—リーディング活動からライティング，スピーキング活動へ—

（実践者）河野　操

１　研究テーマ設定の理由

本研究では，「読むこと」「話すこと（やり取り）」の活動を通して「描写力」「発想力」の向上を図り，主体的に表現できる生徒の育成を目指したい。また，内容理解の言語活動を通して，まとまった英文の内容を理解し，内容について質問したり，要約したり，自分の意見や感想を論理的に述べたりすることが効率的にできるような力を付けさせたい。そのためには，読解力，作文力，口頭表現力などの統合的な運用能力を更に高める必要がある。これまでの課題として，語彙力の低さが挙げられた。得た内容を要約してアウトプットするための作文力や情景描写等の活動に取り組ませて，語彙力の強化を図りつつ口頭表現力を高めるための言語活動を継続して行いたい。さらに，身に付けた技能を生かして，多様な情報の中から必要な情報を受け取り，理解するとともに，英語を使って生徒同士が学び合いながら課題を解決していくことが，深い学びにつながると考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

主体的・対話的で深い学びを目指すためには，生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために，教育学部附属小学校の英語科と共有できる「CAN-DO リスト」形式の到達度目標を作成し，小学校との連携を意識して特に次の二つの点に留意した。一つ目は，「読むこと」「聞くこと」「話すこと（やり取り）」において，必然性のある場面を設定すること。二つ目は，生徒同士，教師とのやり取りを大切にし，豊富なやり取りの場面を十分に設定することである。本文で扱われている内容に関連するテーマを取り上げ，単元のまとめとして上記の２点に重点を置いた活動を設定した。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

コミュニケーション能力を高める方法の一つとして，「表現力」「発想力」を向上させることが有効であると考えている。授業では，生徒たちに教科書の挿絵について説明させたり，本文にない情報を織り交ぜた導入を聞かせたりした。そうすることによって，生徒が本文の内容を自分なりにアレンジしながらまとめたり，Show & Tellのようなスピーチにも抵抗なく取り組んだりすることができた。

(3)　パフォーマンス評価の充実

活動中に相互評価をさせたり，活動後に自己評価をさせたりすることにより，次の活動の改善に役立たせたり，よりよい表現になるよう工夫させたりする機会を持たせた。また，CAN-DO リストとパフォーマンス評価を関連させ,到達目標を考慮しながらパフォーマンス評価に修正を加え，授業改善にも努めた。今までできていなかったことが「できるようになった」，活動を重ねて「前よりよくなった」ということを実感させることは，生徒が自己の成長を確認し，次の活動への意欲を高めることにもつながった。

3　研究の実際

(1)　指導の計画

ア　新出文型を使って過去の出来事を表現できる学び

小学校の外国語科では，小学校の思い出を題材に過去の出来事について表現する活動に取り組んでいる。中学校では，適切な場面設定を行い，体験した内容について手紙を書いたり話したりする活動を充実させ，過去形の文構造について定着を図った。

イ　異国に対する理解と違いを知る面白さを実感する学び

住んでいる国や地域によって，特有の生物がいたり，気候の違いがあったりすることに気付かせ，違いに対して柔軟に対応できる見方，考え方を養った。また，たとえ違いがあっても，共通して取り組むべき課題や守るべきものがあるという認識を持たせた。

ウ　「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

「深い学び」では，「活用」「探究」「問題発見」「問題解決」「気付き」などが活動に含まれることが重要となる。主体的・対話的で深い学びを目指すためには，生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために，既有の知識や経験を生かしたり，すでに小学校の外国語活動・外国語科で使用したことのある単語や表現を使わせたりしながら，特に次の点に留意した。

新出文型の導入や内容理解の場面で，生徒同士，指導者とのやり取りを大切にし，豊富なやり取りの場面を十分に設定したいと考えた。その際に，５Ｗ１Ｈを使った質問をしたり，感想，意見，第一印象，推測したことなどを言わせたりしながらやり取りを進めることを意識させた。また，やり取りを充実したものにするために，「描写力」と「表現力」を向上させることが有効であ

ると考えた。授業では，帯活動でpicture describingに取り組ませたり，生徒たちに教科書の挿絵について説明させたりして「描写力」と「表現力」の向上に努めた。

教科書本文を活用した指導の工夫として，登場人物を自分と置き換え，体験したことを手紙に書く，体験したことを基に質問も交えて対話する，体験したことを紹介するというように，教科書本文と同じ流れで言語活動を試みた。そうすることによって，新出文型の定着を図るとともに，語彙を増やし表現の幅を広げたり，より深く内容について思考したりする活動になるのではないかと考えた。

(2) 指導の実際

ア 単元名

A Letter from Australia （TOTAL ENGLISH 1，Lesson 9）

イ 単元目標

○肯定文，疑問文，否定文を使って，過去の出来事についてやり取りをすることができる。

「知識及び技能」

○オーストラリアがテーマの英文を読んで，概要や要点を捉えるとともに，その内容を基に自分の意見や考えを伝え合うことができる。

「思考力,判断力,表現力等」

○オーストラリアについて得られた知識や情報をもとにして，意見や感想を伝え合おうとする。

「学びに向かう力，人間性等」

ウ 重点目標

＜本質的な問い＞

自分が体験した内容を正しく伝えるには，どのような表現を使ったらよいのだろうか。

＜永続的な理解＞

動詞の過去形には，規則動詞と不規則動詞があり，動詞を語形変化させなければならない。規則動詞は，動詞の語尾に-edを付けるが，-edの発音にはいくつかのパターンがある。また，基本的な動詞ほど不規則動詞が多いため，表現の幅を広げるためにも，不規則動詞をしっかりと身に付けることが大切である。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
過去形の特徴やきまりを理解し，自分が考えたことや感じたこと，その理由などを，過去形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために，オーストラリアで体験したことについて考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために，オーストラリアで体験したことについて考えたことや感じたこと，その理由などを伝え合おうとしている。

オ 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたはある旅行会社の担当者です。旅行先の候補であるオーストラリアについて中学生の目線で紹介してほしいという依頼がありました。バーチャルトラベルを体験し，オーストラリアの魅力やおすすめのお土産について，パンフレットを見せながら紹介してください。	○課題追究状況の観察 ○ワークシート ○振り返りシート

カ　パフォーマンス課題についてのルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	場面に応じた適切な表現や単語を用いて，聞き手に分かりやすく話すことができる。	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに詳しく述べたり，相手の考えを求めたり，話題を広げたりしながら対話を継続したりすることができる。	分からない単語や表現を教科書や辞書を使って調べようとしている。
B	場面に応じた適切な表現や単語を用いて，話すことができる。	完成したスピーチ原稿を音読して紹介することができる。	分からない単語や表現を教科書や辞書を使って調べたり，友達と相談しながら解決したりしようとしている。
C	誤りが多く，場面に応じた適切な表現や単語を用いて，話すことができていない。	完成したスピーチ原稿を見ても十分に紹介できない。	分からない単語や表現を調べたり，友達と相談したりしようとしない。

キ　指導計画（全 10 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・過去形（規則動詞）の肯定文の文構造を理解し，運用する。	知		・過去形の肯定文（規則動詞）の文構造を理解し，適切に使っている。（ワークシート）
2	・過去形の疑問文，否定文の文構造を理解し，運用する。	知		・過去形の疑問文と否定文の文構造を理解し，適切に使っている。（ワークシート）
3	・過去形（不規則動詞）の肯定文の文構造を理解し，運用する。	知		・過去形の肯定文（不規則動詞）の文構造を理解し，適切に使っている。（ワークシート）
4	・Lesson 9A の内容を理解し，音読する。	思		・ベンの手紙の内容を理解し，概略をつかんでいる。（ワークシート）
5	・Lesson 9B の内容を理解し，音読する。	思		・対話の内容から，オーストラリアの動物について概略をつかんでいる。（ワークシート）
6	・Lesson 9C の内容を理解し，音読する。	思		・ベンのスピーチの内容から，オーストラリアのユニークな動物について概略をつかんでいる。（ワークシート）
7	・Lesson 9 のイラスト描写とサマリーをする。	思	○	・本文の内容を把握し，ピクチャーカードを使って，英語で概要を説明している。（ワークシート）
8	・バーチャルトラベルについて手紙を書く。	知 思	○ ○	・オーストラリアの体験についての手紙を書いている。（ワークシート）
9 本時	・手紙を読み，体験の内容を確認する。 ・オーストラリアについてやり取りする。	知 思	○ ○	・オーストラリアの体験についての手紙の内容を把握している。（ワークシート） ・オーストラリアを話題に友達とやり取りをしている。（ワークシート）
10	・パフォーマンス課題に取り組み，オーストラリアの魅力を紹介する。	知 思 態	○ ○ ○	・課題に沿って，オーストラリアの魅力を分かりやすく紹介している。（パフォーマンス）

⑶　授業の実際（９／10 時間）

ア　主題

オーストラリアで体験したことについて，友だちとやり取りをしよう。

イ　ねらい

○バーチャルトラベルについての手紙の内容を理解することができる。

○オーストラリアの話題について友達とやり取りをすることができる。

ウ　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 Warm-up （全体）	5	○ALT の紹介を聞かせた。 ・It's beautiful. ・I want to go there.	○後のやり取りを活発にするために，ALT の説明を聞かせた。
	5	○新出語彙ややり取りのための表現を確認させた。	
学習課題：オーストラリアで体験したことについて，友達とやり取りをしよう。			
2 内容理解 （個人）	15	○自分が書いた手紙を交換させた。 ・メモを取りながら相手の手紙を読み，内容を把握した。 ・質問したいことを決めた。 	○内容を把握しやすくするために，できるだけ簡単な単語を用いて手紙を書かせた。 ◎手紙の内容を把握し，適切な質問を作っているか。 （ワークシート）
3　話題についてのやり取り （ペア）	15	○オーストラリアを話題にし，自分の体験についてやり取りをさせた。 ・写真などを示しながら，見たり聞いたりしたことを説明した。 ・話した内容について質問したり，それに答えたりした。 ・お土産を渡したり，やり取りを楽しんだりした。 	○オーストラリアの話題をもとに，質問も交えて友達とやり取りさせた。 ◎つなぎ言葉や質問を使って時間いっぱい話題についてやり取りができているか。（観察）
4 活動内容の共有 （全体）	5	○興味深かった点やよかった点を発表させた。 ・I'm very interested in Aboriginal culture. ・I enjoyed talking about Australia.	
5 Reflection （個人）	5	○振り返りシートに取り組ませた。 ・本時の学習を振り返り，次回の活動に生かそうとした。	○次時の活動に生かせるように，しっかりと振り返りをさせた。

(4) 生徒の学びの実際

教科書本文を活用した指導の工夫として，登場人物を自分と置き換え，体験したことを手紙に書き，それをもとに質問も交えて対話し，それを紹介するというように，教科書本文と同じ流れで言語活動を試みた。そうすることによって，新出文型の定着を図るとともに，語彙を増やし表現の幅を広げたり，より深く内容について思考したりする活動になった。教科書本文の登場人物のように，オーストラリアを旅行し（バーチャルトラベル），お土産を選んだり，旅行の経験を手紙に書いたりする活動を行った。疑似体験したことをもとに，アボリジニの文化について詳しく説明している内容となっている（**資料１**）。続いて，資料１の手紙を読み，キーワード，要約，感想，質問を考え，ワークシートにまとめた（**資料２**）。資料２が，お土産を渡しながら質問を交えて対話する即興のスピーキング活動に有効だった。

January 27, 2021

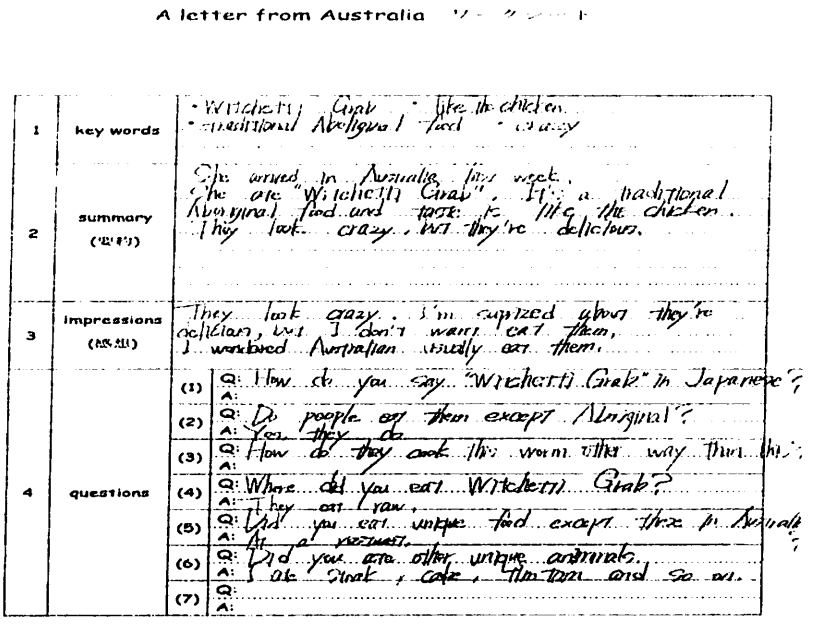
Dear_____,

Hello! I arrived in sydney, four days ago. I'm enjoying a trip to Australia. It's summer here and I'm too hot! I saw koalas and other unique animals. They are so cute. I held a koala in my arms.

By the way, Do you know Aboriginal people? They have lived in Australia since forty thousand years ago. I ask local people about Aboriginal people. I'll introduce their culture to you. First culture is "Didjeridu" It is their traditional and the oldest wind instrument in the world. "Didjeridu" is the same kind with trumpet. It's a meter to four meters long. Second culture is "Bush tucker". It's a traditional Aborigini's food and they eat kangaroos, emus, lizards and many kind of plants. They also eat bugs and they are good for your health. Aboriginal people have a lot of other culture. I'm interested in them very much.
Enjoy pictures in this letter, too!

Your friend,

資料１　生徒が体験後に書いた旅行の手紙



資料２　手紙を読んだ後のまとめシート

4　成果と課題（○成果　●課題）

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

○必然性のある場面設定や豊かな対話の機会を持つことによって，単なるスピーチや単語を並べた対話ではなく，相手の意見を聞いてその内容に関連させた内容を述べたり，根拠や理由を含めたて述べたりすることができた。

●自分の体験を手紙に書くと，内容が豊富になる利点はあるが，難しい語彙や表現が含まれるために，それぞれの英語力によって読むのに時間がかかった生徒もいた。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

○話題を変えながら生徒同士，生徒と教師，生徒とＡＬＴのやり取りを継続して行うことによって，実践の場が増え，コミュニケーション力の向上につながった。

●表現力や発想力を高めるために，既習事項を生かした様々な場面や幅広い話題の設定が必要である。

(3)　パフォーマンス評価の充実

○パフォーマンス評価に関して事前に生徒と共通認識を図り，それを念頭において準備や練習に取り組ませることによって，より多くの生徒が到達目標を達成することができた。

●到達目標を達成できない生徒に対する指導の手立てや支援のあり方を工夫する必要がある。

参考文献

・田尻悟郎(2017)「田尻悟郎の英語教科書本文活用術！－知的で楽しい活動＆トレーニング集－」　教育出版株式会社

・田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸(2011)「推論発問を取り入れた英語リーディング指導深い読みを促す英語授業」　三省堂

・田中武夫・田中知聡(2010)「英語教師のための発問テクニック英語授業を活性化するリーディング指導」　大修館書店

・中嶋洋一・直山木綿子・久保野雅史(2017)「『プロ教師』に学ぶ真のアクティブ・ラーニング“能働”的な英語学習のすすめ」　開隆堂出版

研究（その２）

積極的に英語でやり取りを行う生徒の育成
—リテラチャー・サークルの実践を通して—

（実践者）向井　俊博

１　研究テーマ設定の理由

グローバル社会の進展に伴い，多様な文化や異なる歴史的背景を持つ人々と共存し課題をよりよく解決することができる資質や能力がこれからを担う生徒たちに求められている。社会や他者との関わりを大切にし，自分の気持ちや考えを積極的に表現し，伝える力を身に付けることは，生徒たちがこれからの社会を生きていく上で必要な力であると言える。生徒たちが，対話を行うときに，相手の立場や気持ちを考えながら，さまざまな語彙や表現方法などを駆使することで，よりよい人間関係を築くことにも繋がる。本研究の積極的に英語でやり取りをすることとは，積極的に相手を理解しようとしたり，自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えようとしたりすることである。生徒が積極的に英語でやり取りを行う場面設定の一つとして，リテラチャー・サークルが有効であると考える。リテラチャー・サークルとは，学習者が小グループになり本の内容について質疑応答したり議論したりする協働学習である。リテラチャー・サークルを行うことで，生徒はさまざまな見方や考え方を学んだり，教科書本文の内容を社会の出来事や自分の経験と結び付けて考えたりできるようになる。また，生徒にコミュニケーションの方法や人との関わり方を学ばせ，学びに向かう力を高めさせたい。このように，リテラチャー・サークルの実践を通して，積極的に英語でやり取りを行う生徒を育成したいために，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1)　深い学びを実現する単元構想

社会や他者とのつながりを意識した取組として，教科書の本文内容を利用し，各単元のまとめとして，リテラチャー・サークルを行った。生徒は，協同学習の中で級友の様々な考えを聞いたり，その内容に対する自分の考え，意見や体験を述べたりした。生徒は，学びの内容を生徒自身の身近な話題と関連づけたり様々な人の考えを聞いたりしたことで，他の生徒とやり取りを行いたいという気持ちを高めさせ，学んだ文法事項などを用いて自分の考えを述べるようにさせた。継続的に行うことで，毎回のリテラチャー・サークルで成長が見られるようにさせたい。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

生徒に帯活動で英語での問答ゲームをペアで行わせたり，５Ｗ１Ｈを意識した英問英答を行わせたりした。また，リテラチャー・サークルでは，生徒に聞き手が理解しやすいように伝える項目を精選したり適切な順序に並べ替えたりさせて，論理的思考力を向上させた。また，やり取りを行う際は，相手の発話に関連した質問や意見を述べるようにさせた。

(3)　振り返り活動の充実

360度カメラやロイロノートを用いて，リテラチャー・サークルやパフォーマンステストの内容を録画し，振り返り活動を行うことで，生徒が現状を把握したり，成長を感じたりできるようにした。また，振り返りシートやルーブリックによる評価を用いることで，教師が生徒への指導・改善を行いやすい評価にし，また，生徒が次の活動への学びに向かう力が高まるようにした。

3　研究の実際

(1)　指導の計画

ア　生徒の実態

今回の研究対象クラス（3年生1クラス32名）で以下の内容でアンケートを行った。

【英語の授業で英語で「話すこと」は好きか。】							
とても好き	13名	好き	15名	あまり好きでない	4名	全く好きでない	0名
【英語の授業で英語を「話すこと」を難しいと感じるか。】							
とても思う	4名	思う	11名	あまり思わない	12名	全く思わない	5名

多くの生徒が話すことが好きな一方で，半数の生徒が難しいと感じながらもなんとか英語で伝えようと努力している実態が見られた。こうした生徒の実態を踏まえ，全ての生徒が英語でやり取りをすることに意欲的に取り組めるようにするため，既習事項を活用し，できるだけ身近に感じられる内容で会話ができるようにして，英語を使いたいという気持ちを持たせるようにした。また，全ての生徒が意見を出せるように，個々の考えをしっかり持たせてからジグソー学習を取り入れ，見通しを持たせてリテラチャー・サークルに取り組むようにさせた。

イ　実践内容

中学3年生の七つの単元でリテラチャー・サークルを実践した。リテラチャー・サークルは，4人1組になり，「サマライザー，イラストレーター，クエスチョナー，コネクター」の順に自分が学んだことをお互いに伝えていく。一人が司会者となり，話がスムーズに進むよう調整していく。気になったことがあれば，その都度質疑応答したり，感想やコメントを言ったりするなどのやり取りを行った。話合いの時間は1回につき15分である。本校の中学3年生32名を対象に合計11回のリテラチャー・サークルを行った。本研究では，一つは，授業実践の中で，英語が得意な生徒（生徒A），ある程度得意な生徒（生徒B），苦手ぎみの生徒（生徒C）の生徒3人に焦点を当てて，360度カメラを用いて録画し，15分間にどれだけの語を発話するかのカウント及び発話内容の分析を行った。これらの生徒に焦点を当てることで，得意な生徒はどのようなやり取りを行っているのか，苦手な生徒はどのような点でやり取りを難しく感じているのかを探り，分析した。また，年度末にクラス全体にアンケートを行うことで継続的にリテラチャー・サークルを行うことが有効かどうか，また，積極的に英語を話すことに繋がっているかどうかを確認した。

(2)　指導の実際

ア　単元名

TOTAL ENGLISH 3　Reading 2　Fly Away Home

イ　単元目標

○物語を読み，登場人物の行動や心情の変化，あらすじを理解したり，今後の展開を予想したりすることができる。　「知識及び技能」

○物語を読み，内容について分かりやすい英語で表現し，考えたことや感じたことなどをグループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。　「思考力，判断力，表現力等」

○級友の発表を聞いて，コメントを述べたり質疑応答をしたり，分からない語句があったとしても粘り強く英語を用いてやり取りをしようとする。　「学びに向かう力，人間性等」

ウ　重点目標

＜本質的な問い＞

物語を読み，その内容について，積極的に英語でやり取りを行うにはどうすればよいか。

＜永続的な理解＞

次の三つの視点が必要である。一つ目は，物語の全体の内容を理解することである。個々の単語や文の解釈に追われるだけでなく，物語全体の構造（起承転結）をつかみ，次の展開を想像し

ながら楽しく読むことが大切である。二つ目は，相手に伝えるために６Ｗ１Ｈを意識したり，コミュニケーションの型を活用したりして，自分の理解した内容を相手がイメージしやすいように伝えることである。三つ目は，積極的にやり取りを行うために，相手の発表内容に興味を持ち，アイコンタクト，うなずき，ジェスチャー，イントネーションなどのコミュニケーションスキルを活用してやり取りすることである。

エ　単元の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①今までに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ②実際のコミュニケーションにおいて，物語を読んだ感想や感じたことについて，自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	①物語を読んでの他者の考えを知り，自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要や要点を捉えている。 ②物語を読んで，その内容や自分の考え，気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	①物語を読んでの他者の考えを知り，自分の意見や考えを伝えるために，英文の概要や要点を捉えようとしている。 ②外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，話し手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。

オ　評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは海外に留学中，英語で物語を読む授業を受けており，リテラチャー・サークルを行っています。今回の題材は“Fly Away Home”です。四人がそれぞれの役割を行った後，あるメンバーが“The geese arrived in time. I was surprised! Amy and her father did a great work!”と言いました。その続きを英語で話して，テーマが「挑戦」となるように，Amy たちのエピソードに触れながら，自分の考えを英語で伝え，会話を２分間継続させましょう。	○リテラチャー・サークルの 各役割のワークシート ○ルーブリック評価表 ○360 度カメラで記録されている動画 ○自分の挑戦に関する考えを書いたワークシート

カ　パフォーマンス課題のルーブリック

条件１：物語中の英文や相手が話した内容を引用するなどしている。
条件２：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件３：相手に考えを求めたり，話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり，効果的に引用したりしながら，三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり，効果的に引用したりしながら，三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
B	誤りが一部あるが，コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	三つの条件を満たしてやり取りしている。	三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
C	誤りがあり，話したり聞いたりすることが難しい。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。	三つの条件を満たしてやり取りしていない。

キ　指導計画（全８時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・新出単語や語句の確認を行い，物語を読むことを通して，野鳥のガンの習性を理解する。	知		・「刷り込み」や「渡り」など野鳥のガンの習性を理解している。（ワークシート）
2	・物語を読み，内容を正しく理解したり，展開を予想したりする。	知		・物語の概要を正しく理解したり，展開を予想したりしている。（ワークシート）

3	・登場人物の心情を理解し，それが表現されるように音読する。	思		・登場人物の気持ちを意識し，抑揚を付けながら，正しく英文を読もうとしている。（観察）
4	・リテラチャー・サークルを通して，Part A・B の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って，自分の考えを英語で言おうとしている。（観察）
5	・リテラチャー・サークルを通して,Part C・D の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って，自分の考えを英語で言おうとしている。（観察）
6 本時	・リテラチャー・サークルを通して，Part E の内容理解を行う。	態	○	・物語の内容に沿って，自分の考えを英語で言おうとしている。（観察）
7	・DVD を鑑賞することを通して，物語を理解する。	知		・今までの学習を振り返りながら，自分の解釈と映画の解釈とを比較しようとしている。（ワークシート）
8	・パフォーマンス課題に取り組み，内容を深く考え，自分の考えを英語で述べる。	知 思 態	○ ○ ○	・パフォーマンス評価 （支援）ここまでの授業内容を振り返り，マッピングを用いて自分の考えを整理し，活動への手がかりとする。

「重点」は，重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており，観点の略称は以下のとおり。
知識・技能…「知」　思考・判断・表現…「思」　主体的に学習に取り組む態度…「態」
重点としていない観点についても，生徒の学習状況を評価し，教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

⑶ 授業の実際（６／８）

ア　主題

物語を読んで，感じたことや学んだことを語り合おう。

イ　ねらい

物語を読み，内容について分かったことを英語で表現し，感じたことや考えたことをグループで質問し合ったり応答し合ったりすることができる。

ウ　展開

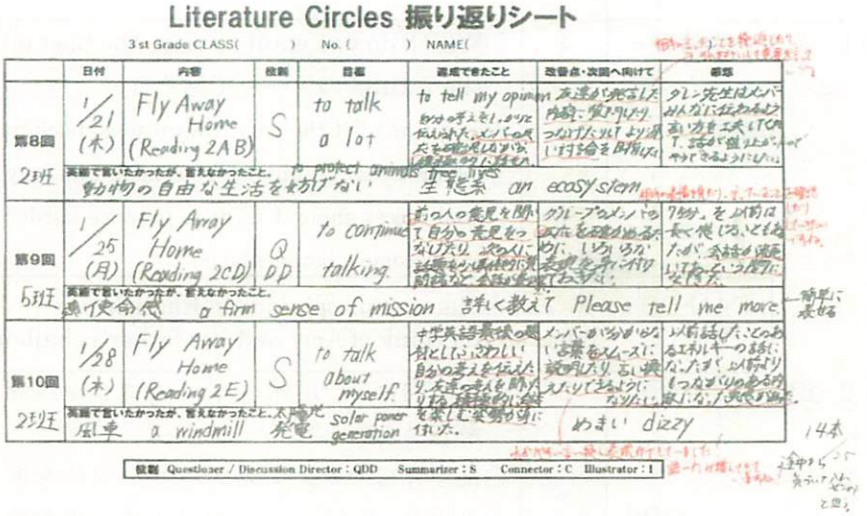
学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 英語で問答ゲーム　（ペア）	4	○Which do you want to visit, the past or the future?のテーマで話そう。 ・I want to visit the past. I want to go back to the first year of junior high school. I lost my final soccer game. I want to practice harder and become a better player.	○相手に分かりやすく伝えるために，結論を先に言ってから理由を述べたり，5W1Hを意識して質問したりして内容を深めさせた。
CAN-DO　We can exchange our opinions in English. “What do you think of Amy and her father’s challenge?”			
2 復習　（一斉）	2	○本文内容を一度読み，内容を大まかに理解させた。	○今回の取組への意欲を高めるために，前単元での話合いの文字起こしをしたプリントを用いて，課題や良かった点を述べたり，話し合う際に有用な表現を確認したりさせた。
3 ミニレッスン　（全体）	5	○前単元でのリテラチャー・サークルを振り返り，良かった点・改善したい点を確認させた。	
4 話合いのための準備　（グループ）	8	○同じ役割で集まり，自分の役割の内容を確認させた。	○自信を持って話合いをするために，ジグソー

			学習で，級友と話し合いながら準備させた。
5 話合い （グループ） 	15	○サマライザーが要約を説明した。 ○イラストレーターがイラストを説明した。 ○クエスチョナーが質疑応答をした。 ○コネクターが自分の経験を話した。 ○まとめの話合いを行い，感じたことを話し合った。	○結論を先に言ったり，6W1Hを意識して自分の考えを述べたりすることで，相手に分かりやすく伝えさせた。 ◎積極的に感想を述べたり質疑応答をしたりしていた。（発話棒・360度カメラ）
6 発表　（全体） 	8	○全体で感想を共有させた。 ・We think to challenge ourselves is important. Amy and her father worked hard to raise babies of goose. They never gave up. I also want to do my best without giving up. My dreams will come true.	◎話合いの中で5W1Hを用いて質問したり，結論を先に言ってから理由を述べたりすることができた。（ワークシート・360度カメラ） ○多様な考えを持たせるために，他のグループの生徒の発表を聞かせた。
7 振り返り （グループ） →（個人）	8	○話合いを通して学んだことや達成できたこと，課題や改善点について話し合わせた。 ・I could talk about my opinions a lot.	

⑷　生徒の学びの実際

ア　振り返りシートの活用

リテラチャー・サークルを行うごとに振り返りを行った。学んだこと，感想や改善点などを記録し，自分の成長を振り返ることができた。「言いたかったが英語で言えなかったこと」を英語で書かせることで，生徒の語彙力の向上に繋がった。（**資料１**）



Literature Circles 振り返りシート

3 st Grade CLASS(　　)　No.(　　)　NAME(

	日付	内容	役割	目標	達成できたこと	改善点・次回へ向けて	感想
第8回	1/21 (木)	Fly Away Home (Reading 2A B)	S	to talk a lot	to tell my opinion		
2班	英語で言いたかったが，言えなかったこと。 動物の自由な生活をやめない				to protect animals' lives	生態系 an ecosystem	
第9回	1/25 (月)	Fly Away Home (Reading 2C D)	Q DD	to continue talking			
5班	英語で言いたかったが，言えなかったこと。 使命感 a firm sense of mission				詳しく教えて Please tell me more		
第10回	1/28 (木)	Fly Away Home (Reading 2E)	S	to talk about myself.			
2班	英語で言いたかったが，言えなかったこと。 風車 a windmill	発電 Solar power generation				めまい dizzy	

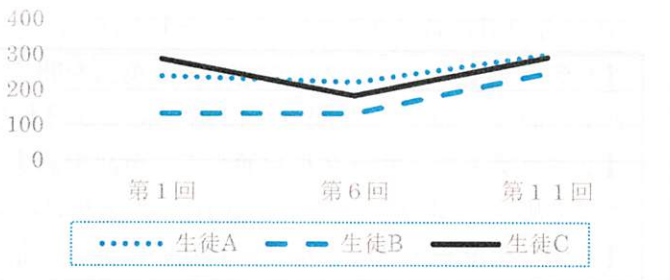
役割 Questioner / Discussion Director : QDD　Summarizer : S　Connector : C　Illustrator : I

資料１　　振り返りシート

イ　発話時の単語数の変化

生徒３人に焦点を当てて，15分間にどれだけの語を発話するかのカウントを行った。第１・６・11回の発話時の単語数を調べた。生徒Ａ（英語が得意），生徒Ｂ（英語がある程度得意），生徒Ｃ（英語が苦手ぎみ）の生徒を抽出し，３回分の変化を調べた。第１回から順番に，生徒Ａは「238→221→300」，生徒Ｂは「133→134→247」，生徒Ｃは「287→183→292」であった。どの生徒も，第１

回と比べて，第 11 回の発話時の単語数は増えている。また，発話する単語は，第１回では，“Oh.”“Yes.”などの間投詞や副詞，名詞などの単語が中心だったが，第 11 回では，５W１Hを用いた質問やその答えも英文で答えようとしている場面が多く見られた。（資料２）



資料２　生徒の発話数の変化（語/15 分）

ウ　発話内容の具体例からの分析

資料３は，第７回のリテラチャー・サークルで生徒 A～D がディスカッションをしていた場面を抜粋したものである。生徒Aは相づちやつなぎ言葉を用いたり，話題が減ってきたときに自分から話題を出したりしている。相手の意見を聞きながら，それに付け加える形で自分の考えを述べている。生徒Bは自分の考えを持っているが，文法上正しく言えない場面があった。生徒Cは I see. や単語など発話が２～３語で終わることが多い。また，生徒Aの言ったことを繰り返している。生徒Bと生徒Cがつまずく場面として，正しい文法で言えていなかったり，自分の考えを英語で言うための適切な単語が出てこなかったりしたように感じられる。これらの会話の内容から，より積極的に英語を話すためには，“I think ～.”などの話型を用いたり，相づちやつなぎ言葉を適切な場面・タイミングで用いたり，和英辞書を用いて継続して語彙力を高めたり，沈黙が続きそうなときにする質問とそれに対する自分の考えをあらかじめ考えておくことが大切である。

生徒 B：Thank you.　Today's topic is about war.
生徒 C：About war?
生徒 B：Why, why... why is?　Why... “起こる”?
生徒 C：Start.　Why start its war?
生徒 A：You mean, why does the war happen?
生徒 C：Yes, why does the war happen?
生徒 B：I have an idea.　People have different idea.　People talk each other is good but talking is no “解決”.
生徒 B：No solve.　So, communicate important. So, bung bung. Killing each other isn't good.
生徒 D：Communicate is very important.
生徒 A：I think so, too. To communicate with each other is important. People talk about our future for peace. What do you think of your idea?
生徒 B：I have a opinion. So, war causes hate.　We...
生徒 A：Share?
生徒 B：We share hate is important.
生徒 C：I see.
生徒 D：I think so, too.
生徒 A：By the way, do we think about next topic?
生徒 B：What topic next?
生徒 C：Talk topic deep.
生徒 D：I see.
生徒 A：If you are Anne Frank, what do you do?
生徒 C：Oh, nice topic! I think I do like Anne Frank.
生徒 B：Oh, really?
生徒 C：But I don't like diary. And I go out. I go other country.
生徒 B：Oh, great boy.
生徒 C：Other country.　What do you think?
生徒 A：Oh, I...　If I am Anne, I want people around the world to understand my feelings.

生徒 A・生徒 C が困っていると，”You mean～.”と言い換えをしている。

生徒 B・言いたいことは伝わるが文法上間違っていたり，思った単語を言えなかったりしている。

生徒 A・相づちをして，生徒 D の言った言葉を繰り返し言った後，自分の意見をつけ加えている。その後，別の生徒に意見を聞いている。

生徒 C・発話は多く，言っている内容はわかるが，思いついたままに言っている印象がある。

生徒 A・話題が少なくなったら，自分から話題を出している。自分の考えも言うことができている。

資料３　第７回リテラチャー・サークルにおける生徒A～Dの会話内容とその分析

エ　生徒全体からのアンケート結果

2021年3月に該当クラスにアンケートを行った。その結果は以下のとおりである。

【リテラチャー・サークルを通して，英語を聞く力が身に付いたか。】
とても思う　20名　　思う　12名　あまり思わない　　0名　全く思わない　　0名
【リテラチャー・サークルを通して，英語を話す力（やり取り）が身に付いたか。】
とても思う　23名　　思う　9名　あまり思わない　　0名　全く思わない　　0名
【リテラチャー・サークルで，お互いに英語で話すことが楽しかったか。】
とても思う　21名　　思う　10名　あまり思わない　　1名　全く思わない　　0名

＜リテラチャー・サークルを行った生徒の感想（一部抜粋）＞

・「自分の言葉」で表現する力が身に付いた。今まで知らなかったクラスメイトの考えや経験に触れることができた。日頃聞けないような一歩踏み込んだ内容も話せたのだと思う。
・英語で話す楽しさをリテラチャー・サークルを通して知れたこと。最初は発言するのが嫌いだったが，班の人が促してくれたことで，自分の伝えたいことを話せるようになったこと。
・これからの社会で他人と協力して様々な問題を解決していくためには，対話力が大切だと思います。英語で議論する活動を通して，相手と意見を伝え合うためのスキルを習得できました。
・確実に英語での会話力が上がりました。始めは使える単語も少なく，日本語も混ざっていたけれど，最後には英語で友達と意見を繋げられました。覚えて話すだけでなく，その場で考えて話すディスカッションの場面があったので，より英語が身に付いたと実感できました。

4　成果と課題（○成果，●課題）

○英語が得意な生徒も苦手な生徒も意欲的に学習に参加することができた。
○「自分の考えを伝えたい」「相手の考えも聞きたい」という思いを生徒から引き出せた。
●生徒が他の生徒の考えを英語で聞いた上で，自分の考えを深化させ，そのことを話題とした会話をどの生徒もできるようになること。
●ミニレッスンでは，生徒が具体的な根拠をもとに相手に反対意見を言うことができたというような良い対話例や物語の根幹の場面を時代背景や自分の推測とを合わせて述べることができたことを褒めるなど教員のアプローチを工夫すること。
●ディスカッションでは，生徒の発言に対して教員が切り返しながら，物語を深く読ませる視点を示したり，物語を通して学ばせたいことに気づかせたりできる授業展開とすること。

参考文献

・山元隆春（2013）「本を読んで語り合うリテラチャー・サークル実践入門」清水社

第3章　おわりに

教科全体として，研究テーマである「社会や世界，他者と関わる中で，自分の気持ちや考えを主体的に表現し，伝え合うことのできる生徒」の育成に向け，日々の授業実践を行ってきた。その中で，生徒が英語で話合いを行う際に場面設定を具体的にしたり，帯活動での問答ゲームや1minuteチャットを充実させたり，発表の中で自分の思いや考えを表現できる機会を設けたり，教員の英語の苦手な生徒への支援の仕方などを研究・実践したりしてきた。今後も生徒の実態を踏まえながら，生徒が英語を使いたいという意欲，自分の英語が相手に伝わったという自信を高めることができるような指導を行っていきたい。